

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	職場管理学						
担当講師	櫻田義樹						
実務経験の概要	理学療法士、医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	4	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

管理とは何か、ということを通じ、様々な観点から理学療法の現場における管理の必要性を学修します。

学修到達目標

1. 管理とは何かを理解出来る。
2. 管理の種類と考え方を理解出来る。
3. あるべき管理者の姿について考察できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 管理総論① |
| 第2回 | 管理総論② |
| 第3回 | 管理組織① |
| 第4回 | 管理組織② |
| 第5回 | リハビリテーション科における管理① |
| 第6回 | リハビリテーション科における管理② |
| 第7回 | 業務管理① |
| 第8回 | 業務管理② |
| 第9回 | データ管理 |
| 第10回 | 労務管理① |
| 第11回 | 労務管理② |
| 第12回 | 医療安全① |
| 第13回 | 医療安全② |
| 第14回 | 職能団体 |
| 第15回 | 演習 総括 |

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

リハビリテーション管理学（医学書院）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学生諸君は現在管理される側にいますが、臨床においてはあらゆる場面で管理が必要となります。未来の事と思わず、しっかり学修してください。

科目名	地域理学療法実践実習						
担当講師	佐藤浩哉 中嶋奈津子						
実務経験の概要	佐藤浩哉 : 医学博士, 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。 中嶋奈津子 : 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	4	単位数	2	時間数	60	開講時期	前後期
授業形態	講義/実技/実習/オムニバス						

授業概要

在宅生活を送る対象者の生活を知るとともに在宅生活者への理学療法介入を経験し、在宅介入における課題や介入特性を理解する。

学修到達目標

1. 在宅生活における理学療法の目的, 役割を理解できる。
2. 在宅生活者の課題を理解できる。
3. 在宅生活者の課題を解決するための介入を理解できる。

授 業 計 画

第1回	通所リハビリテーションの概要①	佐藤浩哉
第2回	通所リハビリテーションの概要②	佐藤浩哉
第3回	通所介護リハビリテーションの実習①	佐藤浩哉
第4回	通所介護リハビリテーションの実習②	佐藤浩哉
第5回	通所介護リハビリテーションの実習③	佐藤浩哉
第6回	通所介護リハビリテーションの実習④	佐藤浩哉
第7回	実習後セミナー①	佐藤浩哉
第8回	実習後セミナー②	佐藤浩哉
第9回	実習後セミナー③	佐藤浩哉
第10回	実習後セミナー④	佐藤浩哉
第11回	実習後セミナー⑤	佐藤浩哉
第12回	訪問リハビリテーションの概要	中嶋奈津子
第13回	疾患別にみる地域理学療法①	中嶋奈津子
第14回	疾患別にみる地域理学療法②	中嶋奈津子
第15回	訪問リハビリテーションの実習①☒	訪問施設実習担当
第16回	訪問リハビリテーションの実習②	訪問施設実習担当
第17回	訪問リハビリテーションの実習③	訪問施設実習担当
第18回	訪問リハビリテーションの実習④	訪問施設実習担当
第19回	実習後セミナー①	中嶋奈津子
第20回	実習後セミナー②	中嶋奈津子
第21回	実習後セミナー③	中嶋奈津子
第22回	実習後セミナー④	中嶋奈津子

第23回	実習後セミナー⑤	中嶋奈津子
第24回	実習後セミナー⑥	中嶋奈津子
第25回	高齢者の在宅支援サービスについて	中嶋奈津子
第26回	疾患別にみる地域理学療法③	中嶋奈津子
第27回	疾患別にみる地域理学療法④	中嶋奈津子
第28回	介護予防と健康増進	中嶋奈津子
第29回	ケーススタディ	中嶋奈津子
第30回	ケーススタディ	中嶋奈津子

評価方法
提出課題

教科書
プリント教材

参考図書・文献
特になし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)
<p>実際の訪問理学療法を経験することで、在宅生活者の生活状況や課題を考える機会となります。対象者、実習に協力いただく関係者への敬意や感謝を忘れず学習してください。尚、講義予定は授業の進行状況を勘案して適時変更となることがあります。</p>

科目名	総合実習						
担当講師	佐藤浩哉 菊池賢汰 長野由紀江 及川龍彦 中嶋奈津子 及川真人						
実務経験の概要	佐藤浩哉 : 医学博士, 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。 菊池賢汰 : 保健学博士, 理学療法士, 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する。 長野由紀江 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。 及川龍彦 : 理学療法士, 医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。 中嶋奈津子 : 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。 及川真人 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	4	単位数	16	時間数	720	開講時期	通年
授業形態	実習						

授業概要

臨床教育者の指導の下, 対象者への理学療法評価に基づいた理学療法を実践する。

学修到達目標

1. 理学療法について一連の流れを理解できる。
2. 理学療法業務を実践できる。
3. 一定の助言のもと, 臨床的評価に基づいた治療を実践できる。

授業計画

実習期間 第1期 令和7年5月12日(月)から7月2日(水)
第2期 令和7年7月28日(月)から9月17日(水)

実習施設 医療施設

実習内容 1. 臨床教育者の指導の下, 対象者への評価および理学療法を実践する。
2. 社会人としての良識を持った行動を行い, スタッフや施設職員との連携を実践する。
3. 臨床において必要な学修・経験を積み, 理学療法技能向上を図る。
4. 自身の行動を振り返り, 課題がある場合は修正する。

実習後セミナー 1. 実習を振り返り, 課題・成果を検証することで, 今後の学修目標や計画を立てる。
2. 臨床において経験した評価や情報を下に, 対象者のレポート・サマリーを作成し, 理学療法にける思考過程を学修する。
3. 症例検討を行い, 臨床的思考過程を深める。

総合実習後評価 総合実習終了後に実施し, 総合実習で習得した臨床技能が卒業時到達目標の水準に達しているか, 評価する。

評価方法

提出課題 (50%) 総合実習後価 (25%) 実習生評価記録 (25%)

教科書

特になし

参考図書・文献

特になし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学内での学修に励み, 別に発行される「総合実習のしおり」を熟読したうえで望んでください。